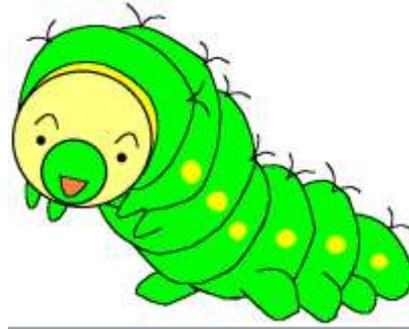


りょうぜん天蚕の会だより

【第 8 号】



発行責任者 りょうぜん天蚕の会 会長 柳沼 泰衛 (電話・FAX 024-586-3004)

【 会長あいさつ 】

立春の候、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成17年2月に設立した「りょうぜん天蚕の会」は、この度8年目を迎えました。これもひとえに会員皆様の熱心な活動と関係機関のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

さて、当会の活動趣旨は、霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進しようとするものです。設立以来、これまで伊達市、福島県関係機関及び大日本蚕糸会等のご支援をいただきながら、会員一同一丸となって繭の生産、新商品開発に取り組むと共に、小学校等への観察用天蚕配布、県内外天蚕関係者との交流及び展示PR活動等を行っております。

23年度は、3月11日に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原発事故に関係した幾多の課題が取り巻くなかで約7,900粒の天蚕繭を収穫するとともに「天蚕紬糸による布織物や和装装飾品」等の製作、東京の「福島県八重洲観光交流館」で昨年に続き第2回目の展示販売などの活動を実践しました。

その結果、天蚕織のジャケット、和装帯等の購入があり、製作販売に大きな進展がありました。また「蚕糸・絹業提携システム事業」へ参画するとともに、本会製品の「商標登録」への事業を開始いたしました。

24年度はこの成果と実績を基にさらなる前進を図るつもりでありますので、皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。



9月5日「天蚕」機織りを体験する来客(阿武急保原駅)

平成23年度総会開く

～ 第7回通常総会 ～

3月5日(土)午後3時より、「りょうぜん里山がっこう」において約40名の出席のもと開催された。柳沼会長の挨拶に続き、市長代理の安藤霊山総合支所次長と尾形正県北農林事務所伊達農業普及所次長の祝辞があった。

議長には瓜田章二氏が選出され、22年度の事業実績と決算報告、23年度事業計画案と予算案が原案通り承認された。

総会後は当学校「宿泊体験棟」に場所を移し懇親会をおこなった。菅野公会員のフルート演奏と美酒に酔いながら終始和やかに懇親が図られた。宴席は4卓フルテーブルとなり「宿泊体験棟」の営業開始以来最高の人数とのことであった。



「りょうぜん里山がっこう」での総会



「宿泊体験棟」での懇親会

【一週間後】

巨大地震発生！ M9.0 東日本大震災

～ 大津波で浜集落壊滅、福島第一原発爆発放射性物質拡散 ～

3月11日(金)午後2時46分ごろ、三陸沖を震源とするマグニチュード(M)9.0の巨大地震が発生、宮城県北部で震度7、本県で震度6強を観測した。気象庁によると、関東大震災などを上回り、近代的な地震観測が始まって以降最大である。

地震直後に発生した大津波により、相馬、南相馬両市を中心に浜通りの海に近い地域が広い範囲で水没し、東京電力福島第一原発の1号機と3号機が爆発し、同原発から半径20キロ以内の住民が避難した。未曾有の大災害となった。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。



地震、津波、原発事故を報じた新聞記事 (左から15、14、13、12日の民報紙)

天蚕の会活動推進に助成金交付さる

～ 蚕糸・絹業提携システム確率対策事業に着手 ～

平成23年4月1日、財団法人大日本蚕糸会会頭高木賢氏より、当事業の実施計画の承認及び助成金の交付決定があった。当事業は蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業実施要項（農林水産事務次官依命通知）に基づくもので、提携システムの名称を「伊達天蚕推進研究会」といい本会がシステムの中心的組織となる。

天蚕農家(6戸)及び養蚕農家(2戸)が生産した繭を天蚕の会が簡易専用繰糸機で繰糸した混合糸(ハイブリット糸)または天蚕糸を経糸とし、一粒紬の手紬糸を緯糸として、手織機による天蚕紬織りショール等の製品に仕上げ、関係機関と連携して直販を中心とし販売するもので、収益の安定と事業拡大を目指す。事業は25年度までの3年間。

また、「伊達市地域づくり支援事業」も採択になり、生産安定化対策、後継者対策、販路拡大、新製品開発等に関して市当局の力強い支援が継続された。

市内小学校で天蚕飼育と工芸品作成講習

～ 市内3校(掛田小、大石小、小国小)で恒例の総合学習 ～

4月11日から2月29日まで延べ13回に渡り、市内小学校(掛田小、大石小、小国小)の総合学習において天蚕に関する講習を実施した。主な内容は「ハウスの手入」「蚕を育てよう(飼育)(大引き)(まゆかき)」「コサージュづくり」「糸取り体験」「まゆ玉工芸」で、日頃の学校生活ではできない体験なので生徒たちは興味旺盛、保護者も参加するなど毎回盛況であった。講師は柳沼会長夫妻、八島事務長夫妻、瓜田会員が務めた。



大石小「蚕を育てよう」(八島・柳沼信子さん)



「まゆ玉工芸」での八島さん



生徒の作品「ペンギン」

「りょうぜん天蚕の会」登録商標申請

～ 天蚕商品の信用維持と進展を目指して ～

8月23日付けで「りょうぜん天蚕の会」の登録商標申請を行った。商標とは、他人の商品・役務(サービス)と区分するために、業として自己の取り扱う商品・役務について使用するマーク(標識)を言う。日本の商標法上、商標は「文字、図形、記号、立体的形状若しくはこれらの結合又はこれらと色彩との結合」に限られる。

商標権は事業者が円滑な経済活動を行っていくためには、取引者・需要者がある商品や役務は誰が製造又は提供したものか、その商品や役務の質としてはどのくらいのものが期待されるのか、といった事項がわかることが必要である。指定商品についての登録商標を独占的に使用する権利(使用权)であるとともに、他人が指定商品と類似する商品について、当該商標又は類似する商標を使用することを排除することができる権利である。

申請した商標は年度内に登録される見込みとなり、本会商品の信用維持と当会進展の大きな財産となる。



「りょうぜん天蚕の会」

広島可部天蚕生産グループから震災見舞い届く ～ 天蚕で結ばれた広島県の仲間から ～

昨年度の世界野蚕学会において「リング」に繭を丸ごと入れたキーホルダーが目に入った。ユニークであり商品にするため福島でリングを探したが見つけれず、可部天蚕生産グループに照会したところ中国で製造したものであるとの返事とともに日本での部品生産会社も見つけて頂いた。さらに「震災・原発事故風評被害の見舞いにお使ください」と100個も送付して頂いた。天蚕で結ばれた仲間とは有り難いものである。

この繭リングストラップは直ちに制作し、10月2日の阿武急保原駅でのイベントに展示したところ30分で完売となった。また、東京八重洲口の福島県観光交流館でも手頃な価格と大好評であった。



家蚕 天蚕 コス死カ



天蚕繭を丸ごと入れた「リングストラップ」

筑波大学からカミキリムシ捕獲に来たる

～ フェロモンの学術研究、天蚕害虫駆除に期待 ～

7月5日、茨城県つくば市（独）農業生物資源研究所の安居、辻井の両博士が来町し橋本ハウスと館ハウスでカミキリムシ約80匹を捕獲した。両氏は、当虫が発するフェロモンと当虫が好む樹木（臭・香）との関係と農業生産に関する有効性の研究をしているとのことで、ここ数年来町している。他に和歌山県内のミカン畑でも捕獲しているが、霊山のようにこんなに多量に捕獲できる場所はないという。

この研究の進展によっては、天蚕の畑から全てのカミキリムシを駆除できるようになり、或いは一本の木に無数のカミキリムシを集めることができるかも知れないという。当虫の生態防除につながる研究成果に期待したい。



捕獲したカミキリムシ（中にマヤタギの枝）



安居拓恵さん(奥)と 辻井 直さん(手前)

会長夫妻天蚕ジャケットで金婚式に臨む

～ 鮮やかな萌黄色の洋装に賞賛の声 ～



9月14日、霊山中央公民館において霊山町老人クラブ連合会主催による金婚夫婦表彰式が行われ、当会の柳沼会長夫妻が表彰された。

席上夫人の信子さんは天蚕布で仕立てたジャケットを召して臨まれ、ひときは鮮やかな萌黄色の洋装に参列者の注目を浴びた。

「ジャケットは横縞模様合わせの仕立に工夫を凝らし天蚕独特の輝きがとても上品に仕上がりました。

スカートは上衣に合わせて若草色の着物を利用して仕立替を行ったもので、思いのほか上下ピッタリに仕上がりました。」(夫人談)



天蚕の会創立以来7年にして衣類製作の確信を得た。

金婚夫婦表彰式での柳沼会長夫妻
(柳沼会長のネクタイピンも天蚕仕様です)

天蚕布の「名古屋帯」を初釜で披露

～ 霊山町山戸田 成林寺住職夫人 ～

2月11日、伊達市霊山町山戸田の曹洞宗成林寺(久間泰瑞住職)において久間社中の初釜茶会が開催された。この席で住職夫人カズコさんが天蚕布の帯を着けられ献茶のお点前を披露した。和装の大勢の招客は天蚕帯の色艶、手触り、着付具合などが話題となり、帯に対する感嘆の声が絶えず、一同優雅な一時を過ごされた。「軽くて腰がとても温かです。」との感想を述べておられた。

カズコさんは第64回県文学賞(詩部門正賞)を受賞された方で、成林寺境内に設けられた「全国曹洞宗青年会災害復興支援本部」に全国から来ている僧侶達の活動を暖かく支援されているとともに、天蚕会の活動にも創設当時から大きな期待と理解をいただいている。



天蚕帯を着けた茶席の久間さん。



渡部社長(中央)と佐藤知事(左)から表彰を受ける久間さん。(民報12月18日記事詳細)

風評被害支援「伊達市フェア」展示即売会に参加

～ 天蚕品の輝きと繊細な色に驚嘆 ～

11月12～13日、東京八重洲口にある「福島県観光交流館」において「伊達市フェア」が開催され「りょうぜん天蚕」のグループと共に八島事務局長夫妻が参加した。

初日の12日（土）は近くのホテルで催し物があるということで通り客が引きも切らずに入館した。しかし、一過性の顧客には「天蚕商品」の輝きと繊細な色に驚嘆はすれども購買には至らなかった。ダイレクトメールを50通発信し内20%が来館したが高価な商品に思いやり購入にとどまった。 福島県観光交流館で「天蚕商品」の展示



阿武急保原駅で「天蚕まつり」展示即売会

～ 「阿武急フリーの日」糸づくり体験も ～

9月5日、阿武隈急行保原駅コミュニティセンターで天蚕紬製品展示・糸づくり体験会を行った。伊達市観光物産協会（阿部謙一郎会長）の主催によるもので、毎月第一日曜日の「阿武隈急行フリー乗車の日」と重なったため大勢の乗降客で賑わった。

初めて見る緑の繭に驚嘆する人、恐る恐る手にする中学生、天蚕布やハンドバック、アクセサリに賞賛を寄せられるなど、当会の活動が阿武急沿線に発信する機会を大いに得たところである。

10月2日（例年3日）にも「天蚕（テン・サン）」にちなみ開催し再度大賑わいであった。



天蚕糸紬を体験する大勢の乗降客



「天蚕まつり」を報じた記事(民報10月2日参照)



天蚕虫にビックリ(桃陵中の双子姉妹)

収穫感謝祭と反省会開く

～ ネット収納と蚕種の整理を終えて ～

好天に恵まれた11月27日（日）午後1時より、飼育ハウスのネット収納作業を男性会員13名、蚕種の整理と袋づめを女性会員10名で実施した。全ての作業を2時間強で終えて、3時半より中川集落センターで収穫祭兼反省会を行った。

会員それぞれ持ち寄った野菜で芋煮汁、手作りコンニャク刺身、きんぴらゴボウ、漬け物、ホウレンソウのお浸し、盛り沢山の果物に舌鼓を打った。また、「広島可部山まゆ同好会」から震災見舞いとして送られた「リング繭ストラップ」と、会員が実習で織った布の巾着が全員に配布された。木綿糸の中に少々天蚕糸が入った巾着はさすがに輝きが異なり見事な作品に仕上がっていた。

宴会の合間に、八島事務局長から東京八重洲での風評被害支援「伊達市フェア」や「阿武急フリーの日」の展示販売の様子や今年度の売り上げ概算が報告された。

また、瓜田会員からは専門的立場で「放射能の影響」について詳しいデータに基づき説明を受けた。「自然界にはもともと放射能は存在しそれに対応して生命を維持して来た。現レベルの放射能には恐れることはなくこれまで同様の生活を継続され、過剰な反応によるストレスの方が人体に及ぼす影響が高い。」と話され、会員の興味を惹きつけた。



男性会員による飼育ハウスのネット収納作業



女性会員による蚕種の整理と袋づめ作業



中川集落センターで反省会「八島事務長の報告」



瓜田会員「放射能の影響」について講話

会員の活動スナップ



ネット張り作業を終えて一服



ネット張りの後に山付けを行う天女の皆さん



天蚕織りに見入る来客（阿武急保原駅）



機織機の組立（あうでねー、こうでねー）



経糸掛け講習会（八島事務長宅）



展示した商品の数々



天蚕音頭・踊り講習（阿武急保原駅）



コサージ作りの講習

りょうぜん天蚕の会だより

会員の笑顔



柳沼泰衛さん



柳沼信子さん



八島利幸さん



八島恭子さん



菅野広一さん



菅野久代さん



斎藤行広さん



奥山俊雄さん



引地 収さん



引地梯子さん



阿久津秀次さん



阿久津ヨコさん



瓜田章二さん



河田明芳さん



高野金助さん



国分とみえさん



佐藤健治郎さん



川辺洋子さん



島貫 茂さん



大友靖子さん



八城シゲ子さん



菅野 公さん



安田恭子さん



八島時男さん



菅野保雄さん



石岡洋子さん



末永 敏さん



佐藤厚子さん



阿久津福男さん



柳沼貞夫さん



柳沼愛子さん



長谷川貞夫さん



菅野善正さん



三田村敏正さん



松本幸司さん



柳沼良一さん



亀岡さん



丹治伝一郎さん



大橋亮治さん



新関幸子さん



池田忠幸さん



菅野秀一さん



斎藤憲一さん



山本 純さん



斎藤直之さん



林なおみさん



天蚕くん

